



こまえをこまげる こまづなNEWS

VOL.71
2024年2月号



発行: 責任編集
狛江市岩戸北
3-18-8-701
分かりやすい政治を
伝える維新の会



ひとあし先に花満開

(株)和泉園
代表取締役社長
白井真一さん



満開に咲き誇る桜の商業が見られるようになると、春の訪れを感じます。今回の「こまえの スゴイ会社」は 貸し植木業を営みながら、映像で使われる植物装飾では最大手の(株)和泉園さんをご紹介します。



株式会社和泉園(中和泉・白井真一代表取締役)は創業五十年を超える市内でも有数の貸し植木の会社です。私の前職の広告会社時代には「撮影用の植物は和泉園で」と業界でも広く知られている会社でもありました。今回、「コマーシャル撮影用の桜を急ピッチで制作されるというご多忙の中、白井社長にとっておきのお話をたくさんお聞きすることができました。(聞き手:三宅まこと)」

こだわりの詰まった桜のパーツは我が社のオリジナルです。

映像の現場で装飾用の桜は有名ですね

「この桜は、結構手間をかけておりまして、実は商社を通じて海外で作っている特注品になります。色味や枝の細さ、風にそよぐ感じ、花びらが全部下に向かないようにとか、細かい注文の末にできあがる桜のパーツは我が社のオリジナルです。一般造花用の桜と比べていただければ、その違いがわかると思います。」



一本一本のパーツがすごいんですね

「そうですね、うちは控えめに言ってますが、コマーシャルの桜の7割くらいは扱っています。実は花びらの色味は、年ごとに流行が違ってくるんです。基本的に照明により微妙に変わりますので、私たちは撮影に立ち会います。その現場でお客様のニーズをくみ取ってノウハウを蓄積してきたわけです。」

まさに、企業努力をされていますね

特に桜はみなさん好きなので、よく見られるんですよ。だから、付け方ひとつも簡単ではないです。基本は



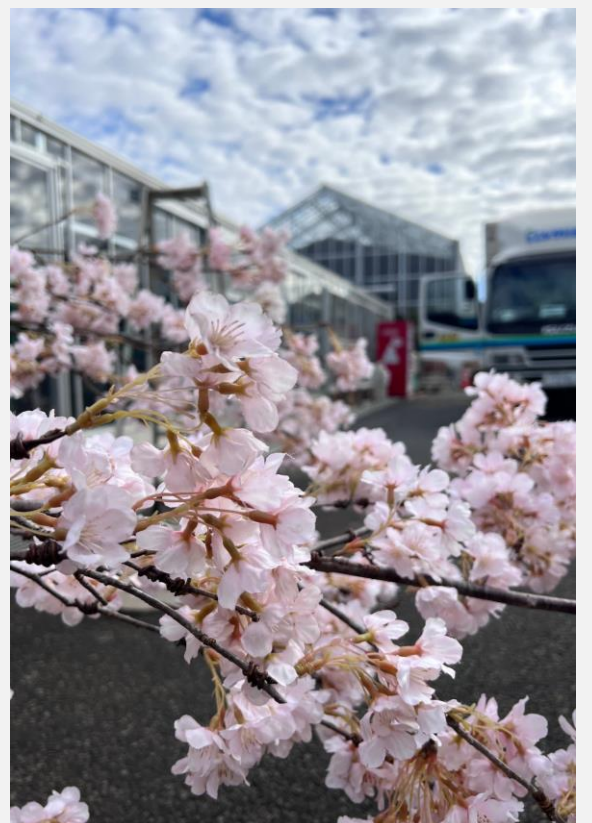
枝に沿ってつけるんですが、熟練の技を身につけたうちの社員が担当しています。」

会社の沿革を教えてください。

もともと父(白井昇相談役)は植木屋でしたが、事業所オフィスを巡回し、メンテナンスとしていく定期貸鉢の事業がメインでした。そんなときに東宝の知り合いの方から「撮影用の植木を貸して」と言われたのが、映像事業のスタートです。

市民の皆さんにお伝えしたいこと。

長年にわたり花火大会の協賛をさせていただいておりますが、市民の皆さんに特に伝えたいのはチップの事業です。実は狛江市



のご家庭で剪定後に廃棄される枝葉を収集し、リサイクルでチップに加工しています。狛江市の農家さんや堆肥として貸与したり、舗装材にも使っています。

植木屋は植物を殺生している職業だからエコとは言えないんです。そういう意味では、協力できることはやったほうがいいですし、協力もしたいと思っています。最後に市民の皆さんに申し上げたいことは、ぜひ和泉園へ見学にいらしてください。お待ちしております。」

【ミヤケが感動したスゴイポイント】

桜へのこだわり方は半端なかった。でも、それ以上に驚いたのは、自分自身をエコではないと言い切れること。そのことを前提としてリサイクルのチップ事業を手がける、それってスゴイことだ。

